

# 福島県高等学校野球 大会規定および注意事項

福島県高等学校野球連盟

## 大会規定

1. 本大会は当該年度公認野球規則を適用する。ただし、コールドゲームは、次の通りとする。
  - (1) 5回表裏完了もしくは5回表終了以降10点差または、7回表裏完了もしくは7回表終了以降7点差以上ある場合にはコールドゲームとする。  
ただし、決勝戦には適用しない。
  - (2) 日没・降雨等で試合続行不能の場合には、野球規則では5回表終了以降であるが、本大会ではそれが7回表以降であればコールドゲームとし、得点の多いチームを勝ちとする。同点の場合には再試合とし、原則として翌日の第1試合とする。  
日没・降雨等によるコールドゲームは、決勝戦には適用しない。
2. サスペンデッドゲーム（一時停止試合・継続試合）は適用しない。（硬式のみ）
3. すべての公式戦でタイブレーク制度を採用する。タイブレーク制度の運用は、高校野球特別規則に従う。
4. ベンチに着席する責任教師・監督ならびに選手（大会参加者資格規定適格者）は、選手資格証明書に記載された者に限る。選手は背番号（1～20）を付けたユニフォームを責任教師は平服（ワイシャツ、ネクタイ、又はスタッフシャツ）を、監督は選手と同じユニフォームを着用すること。記録員（女子可）を1名ベンチに入ること認める（20名＋1名）。ただし、服装は制服・トレーニングウェアまたは背番号のないユニフォームを着用すること。
5. ベンチサイドは組合せ番号の小さい方を1塁側とし、決勝まで適用する。
6. 各チームは試合予定時刻の1時間前までに球場に到着し、本部に報告して待機すること。責任教師（ユニフォーム可）及び主将は、試合開始予定時刻1時間前に、メンバー表（フルネームでフリガナをつける）5部を大会本部に提出すること。同時に攻守を決定する。
7. 試合前のシートノックは7分以内とする。ただし、試合進行の都合で省略することもある。開始や終了は放送で合図するので厳守すること。シートノックは登録した選手だけで行うこと。ただし、ノッカーを1名加えてもよい。ノッカーは選手と同じユニフォームとスパイクを着用し、シートノック終了後は直ちにグラウンドから退場すること。外野でのアップは、アップシューズで行う。
8. 大会の使用球は福島県高野連の認めた試合球とする。
9. 大会の審判は福島県野球連盟の審判委員が行う。
10. 審判委員に対するアペールは、規則適用上の疑問を質すときのみであって、主将または問題の当事者にかぎる。審判委員の判定に対しては絶対に服従し、抗議することはできない。
11. メンバー交換後は選手の一時的交替を認めない。ただし、試合中選手に不慮の障害などがおき、一時走者を代えないと試合が続行できないと審判委員が認めたときは、相手チームの主将に事情を説明して、臨時の代走者を定めることができる。代走者は試合に出場している選手に限られるが、投手と捕手を除いた選手のうち、直前に打撃を終了した者とする。
12. 試合中の負傷または疾病に対しては、応急手当を施すほか主催者は責任を負わない。
13. 試合中に紛争がおこり、試合の続行が不可能になったときは紛争を起こした側（応援者も含む）が責任を負い、そのチームを敗者とする。
14. ベンチ内に持ち込めるものは監督指示用のメガホン1本のみ（監督以外の試用は不可）、野球用具以外はベンチに持ち込まないこと。

15. 金属製バットの使用は日本高等学校野球連盟で認可したものに限り、使用野球用具は日本高等学校野球連盟が定めた「高校野球用具の使用制限」で規制したものに限り、
16. 大会前または大会中の負傷で試合出場が不可能になった選手は、試合には出場しない条件でベンチに入ることを認める。その場合、どの程度参画するかについてを試合前に大会本部に申し出て許可を得ること。
17. 各学校は必ず一名の責任教師が引率し、大会中の選手のすべての行動に対して責任を負うこと。
18. 大会運営の一切については、大会運営委員会の決定・指示に従うこと。

## 注 意 事 項

1. 監督及び選手は試合をスピーデイに行うよう心がけること。
  - (1) 試合中の攻守交代のときは全力で走ること。
  - (2) 投手が審判からボールを受け取るとき、及び、打者が打者席に入るときは脱帽しなくともよい。
  - (3) 次打者は投手といえども、次打者席に入り低い姿勢で待機すること。
  - (4) アウトをとったあとのボール回しは1回以内とする。打者がいるときは盗塁死をとってもボール回しはしないこと。スリーアウト後のボールは投手板の近くに置くこと。
  - (5) 捕手が2アウト後の次打者の場合でも、プロテクターは取り外してまつこと。
  - (6) 捕手が投手への返球のため頻りに捕手席を離れないこと。
  - (7) コーチャーはミーティングサークルに加わらず、ただちにコーチスボックスに入ること。
  - (8) 打者はベンチのサインを見るとき、打者席をはずさないこと。
  - (9) 走者のヘルメットが脱げたとき、近くにいる審判員がこれを走者に手渡す。原則としてタイムをかけない。
  - (10) 監督は選手をベンチに呼ばないで必要なときは伝令を通して指示すること。
  - (11) イニング間のミーティングは試合進行を妨げないようにスピーデイに行うこと。
  - (12) 守備に入る前の控え選手のベンチ前での声出しは、ベンチから出過ぎないこと。なお、守備終了時に控え選手の出迎えも、出過ぎないこと。
  - (13) 守備時・攻撃時のタイムは、30秒以内とする。
  - (14) ブルペンでの捕手はフル装備とし、ヘルメット、マスクを着用すること。
2. 高校生らしいマナーを身につけるように心がけること。
  - (1) きちんとした服装でプレイすること。チタンネックレス等はユニフォームからでないようにする。
  - (2) 審判委員や選手に対して、暴言やきたないやじをとばさないこと。相手チームに威圧を与える行為や威嚇する発声はしないこと。選手は常に立派な態度でプレイすること。
  - (3) 故意の空タッチや、意図的な強いタッチはしないこと。
  - (4) 打者は捕手の後方で投球の偵察をしないこと。
  - (5) 日没や降雨などを意識して、故意に試合を引き延ばさないこと。
  - (6) ベースコーチャーのセーフ等の発声を禁止する。また、コーチスボックスから片足を出したり、離れてコーチすることを禁止する。
  - (7) サングラスの使用は、野手が眩しくてプレイに支障が出る場合、審判委員に申し出て使用を認める。
  - (8) グラウンドコートの着用は禁止する。ただし、小雨中や夜間の試合のとき、攻撃側の投手が走者になった場合は審判委員の許可を得れば着用できる。
  - (9) 高校野球での、ハーフスイングに対する捕手からのリクエストは打者を指差し、口頭で”スイング””振った”と球審に要請することができる。捕手が一塁や三塁の塁審に対して直接指差してリクエストすることはできない。ただし監督は、打者が振ったか否かについて、ベンチ内から捕手に指示することはできるが、伝令を使うことは禁止する。
  - (10) ボールを保持しないまま、本塁上での捕手のブロックプレイは絶対に行わない

こと。

(11) ベンチの後始末をきちんとすること。

### 3. 危険防止に努めること。

- (1) 試合前にバットを点検すること。変形したバット、破損したバット、鉄棒、バットリング等はベンチへの持ち込みを禁止する。ただし、次打者席にマスコットバット1本を入れてもよい。
- (2) 打者及び走者・ベースコーチは危険防止のため両耳つきヘルメットを必ず着帽すること。色彩は黒、紺または白のいずれか一色とし、表面にはチームの校名およびその頭文字、校章、番号以外は表示できない。
- (3) 試合中、練習中を問わず、捕手が座って投手の投球を受けるときは、必ずマスク、ヘルメット（色彩等の制限は打者用と同様）などの捕手用具を着用すること。なお、完全装備が無理なときは、少なくともマスク、ヘルメットだけは着用すること。
- (4) 走者が塁に滑らずに野手に向かってのスライディング、足を上げてのスライディングや体当たり等のラフプレーは絶対に行わないこと。
- (5) 捕手はスロートガードと急所カップを必ず着用すること。

### 4. その他

- (1) ユニフォームの表に着いているメーカーのマークは取り外すこと。スパイクの色彩は黒とし、白、黄色のライン等は消すこと。
- (2) 開会式の学校名プラカード・校名旗保持者は、各チームの登録選手の中から選ぶこと。尚、入場行進はチームで統一した白もしくは黒のアップシューズで行う。
- (3) 第1試合の試合開始予定時刻の1時間前になったら、ノッカー及びノック補助以外の背番号のない選手はグラウンド外に出ること。選手は公式戦用のユニフォームを着用すること。
- (4) 各種県大会のシートノック時の、ノッカー補助員を3名まで認める。ただし、きちんとしたユニホーム姿であること。（シューズ並びに自チームヘルメットを着用する。）  
また、女子マネージャーについてはトレーニングウェアであること。
- (5) 試合の運営、進行には当該両チームが積極的に協力すること。
  - (ア) 試合中のグラウンド内のファールボールについては両チームで拾うこと。尚、全ての球場の外野にグラウンドボーイを置く。
  - (イ) 試合前のグラウンド整備については大会補助員が行うが、試合終了後の整備については、勝利チームの登録選手全員で行うこと。  
又、5回終了時のグラウンド整備については、

1 塁側チーム：	1 塁ベース近辺	・・・	2 人
	2 塁ベース近辺	・・・	3 人
3 塁側チーム：	3 塁ベース近辺	・・・	2 人
	ショート近辺	・・・	3 人

ただし、部員が14人に満たない場合は、事前に大会本部に連絡すること。
- (6) グラウンド内のボールボーイ（3名）については、自チームで出すこと。また、打者用ロージンについても準備すること。  
（ボールボーイ3名を出せないチームについてはトス時に大会本部に申し出ること。）
- (7) バックネット裏での野球部員のビデオ撮影等を禁止する。
- (8) 障害者のための駐車場を各球場で確保する。
- (9) シートノック終了後及び5回終了時のグラウンド整備中の応援を禁止する。
- (10) 応援については別に定める。
- (11) 次打者席にマスコットバット1本を入れてもよい。
- (12) 相手チームがノック中の時は、ベンチから出ないこと。
- (13) 芝生上からスパイクを履いてのノックは禁止するが、アップシューズでも芝生養生のため出来るだけ土の上でノックする。
- (14) テーピングは肌色に統一する。
- (15) 第2試合以降の試合前の遠投は、3分以内で交互に行い、後攻めが先に行う。
- (16) エルボーガード等は、進塁先のベース上で外すこと。

- (17) 試合前のパフォーマンスはベンチ前で行うこと。(外野席の控え部員のところまで行かない)
- (18) 練習試合等での県外宿泊を伴う場合のみ、県外試合届(P83)を県高野連に提出すること。
- (19) 夏の大会の公式練習では、統一したユニフォームを着用すること。  
※統一の概念：①試合用ユニフォーム(背番号無しも可) ②無地の練習着  
③チーム練習用シャツ(チーム名・氏名・チームマークは可、その他の文言入りは不可)  
④上下でツートンになるような着こなしは不可
- (20) ノッカー及びノック補助は、試合前のサイドノックも可とする。  
(ただし、ノックをするのはノッカー登録者に限る。)
- (21) ノックを補助する者、ベースコーチ、バット引きのヘルメット着用を徹底する。